

打木宿

尊公郡の時方鳥居直義陳示

とま鋏や式八とせうら村 吉岡

株の根やんごう今打木村 吉岡

下うりやまやらわら根のち 吉岡

夷船ゆらりおれ少根多那 三浦氏 義次

阿保親王廟示

おれや七白の勝建武の中白の

阿保寺個清湯のふ山想念徳

花の波西海一也 阿保寺

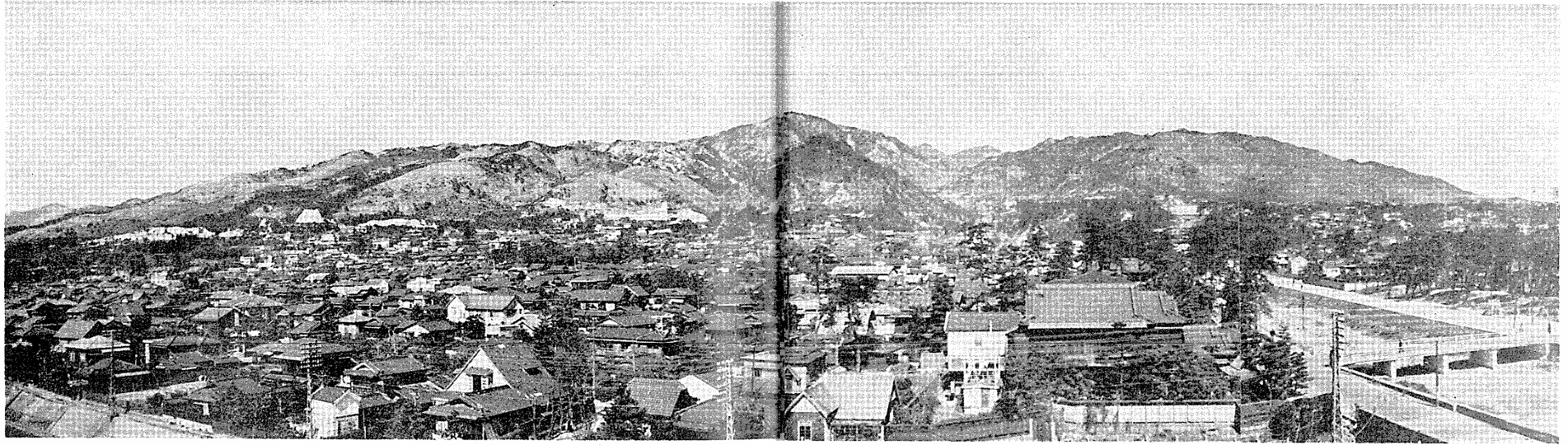
芦屋市史

本編

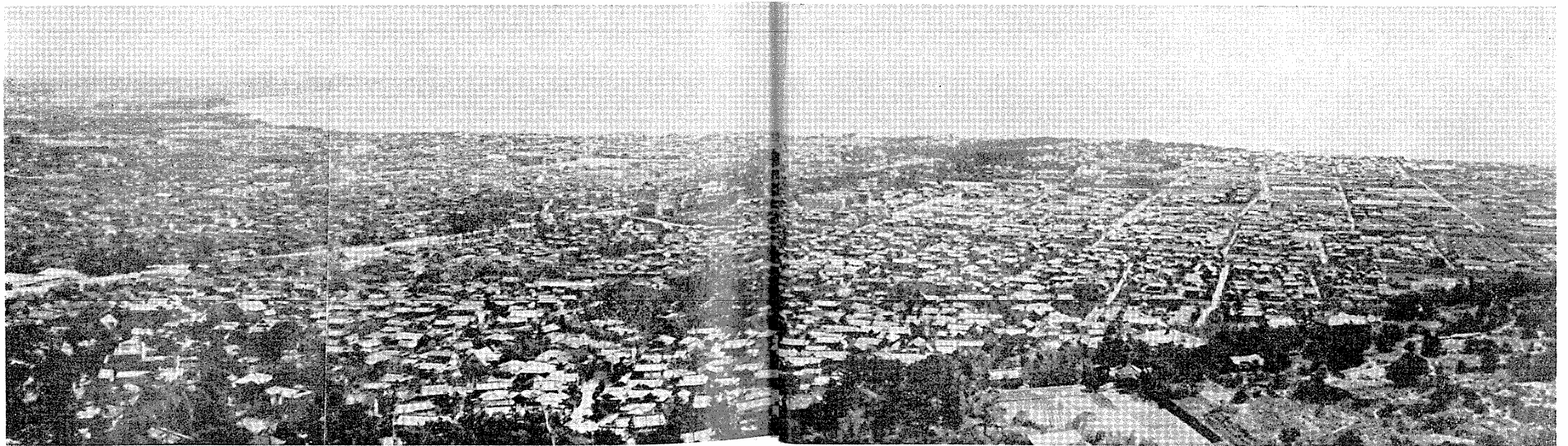
兵庫県芦屋市教育委員会



図版第1 芦屋市遺跡地図



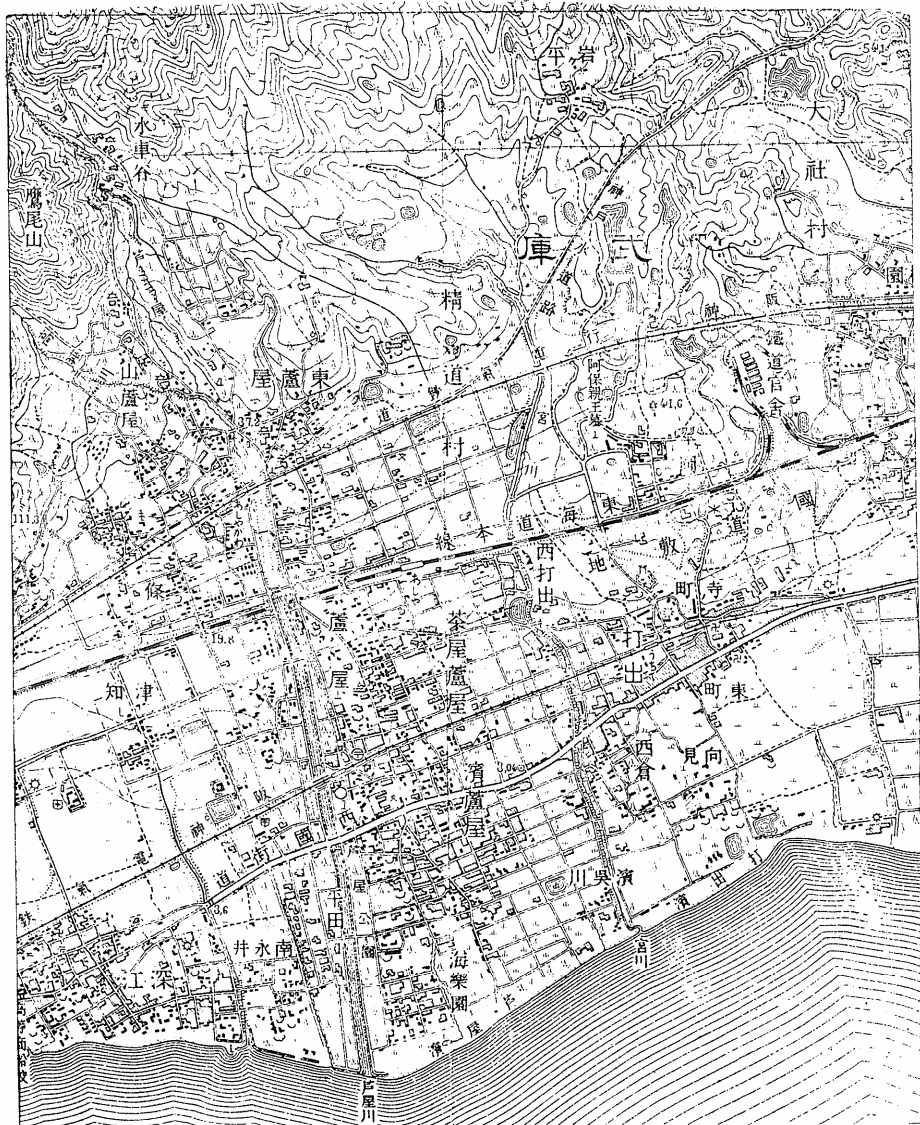
図版第2 芦屋市景観(一) (仏教会館屋上から北を望む)



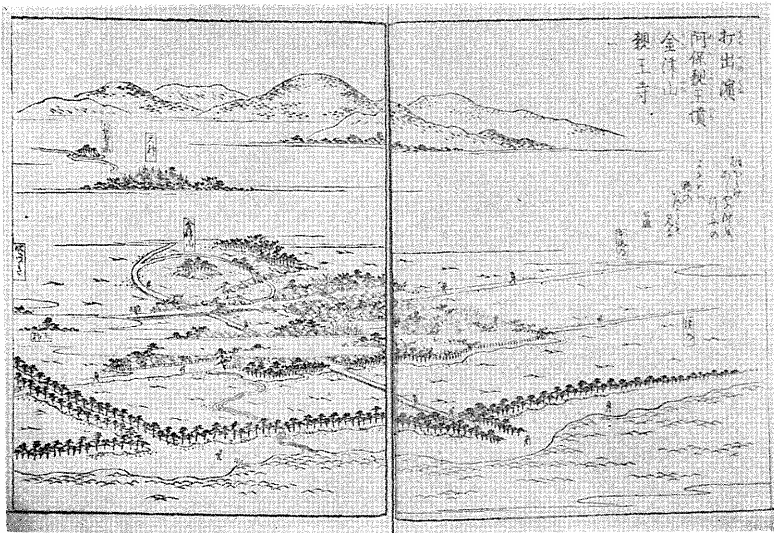
図版第3 芦屋市景観(二) (会下山上から俯瞰)



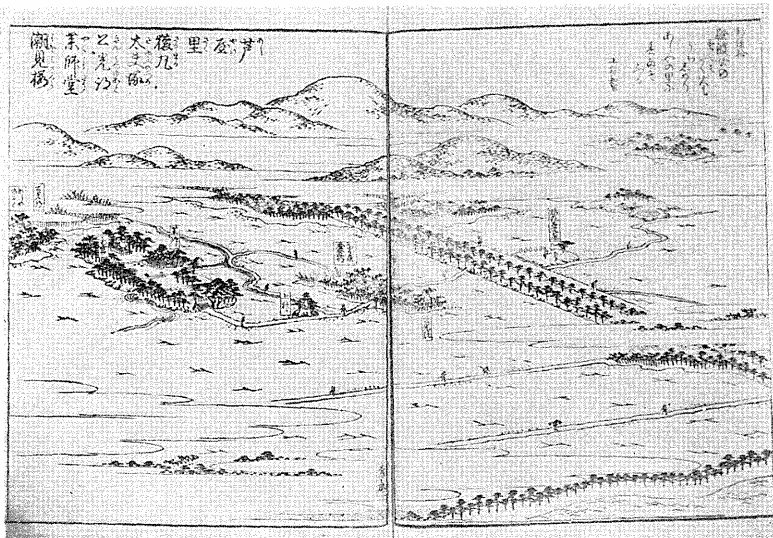
図版第4 地図に見る70年前の芦屋
(明治17・18年測量陸地測量部二万分一地形図)



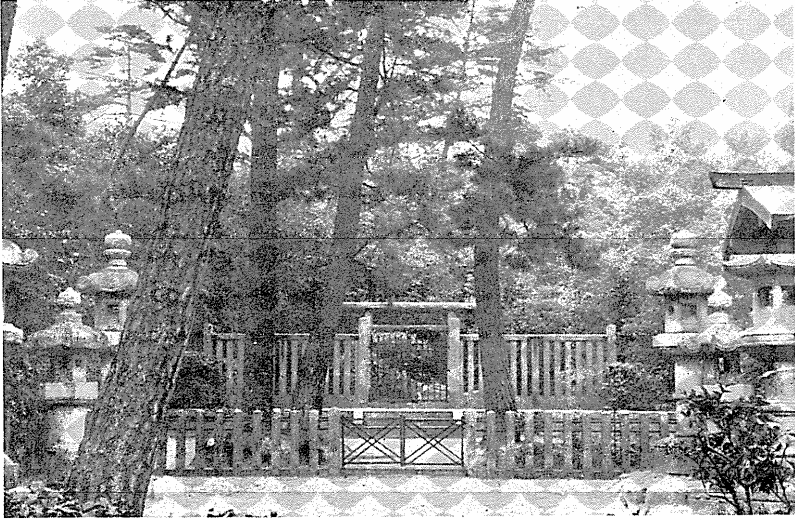
図版第5 地図に見る30余年前の芦屋
 (大正12年測図陸地測量部二万五千分一地形図)



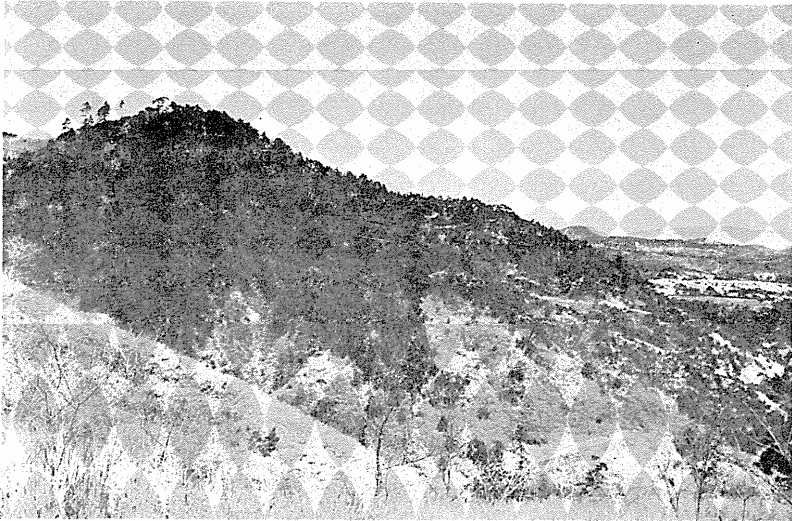
図版第6 摂津名所図会に見る近世の打出



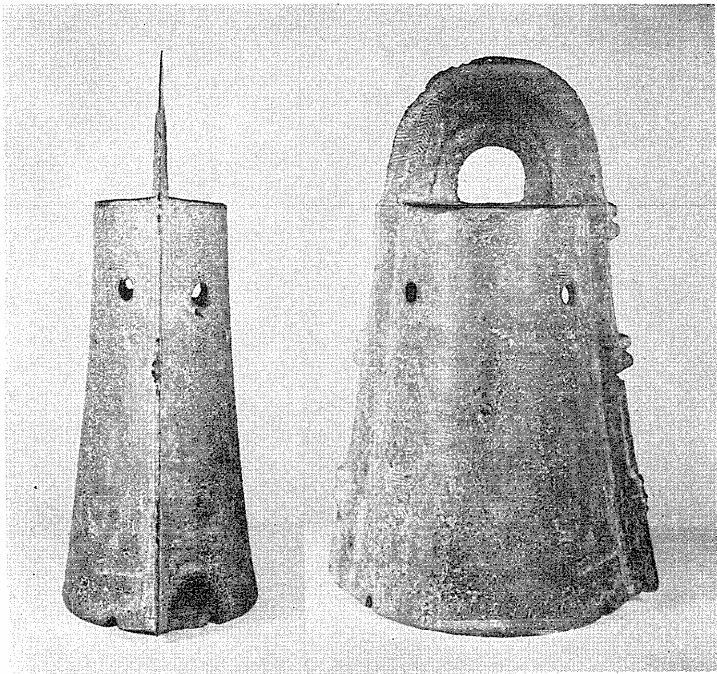
図版第7 摂津名所図会に見る近世の芦屋



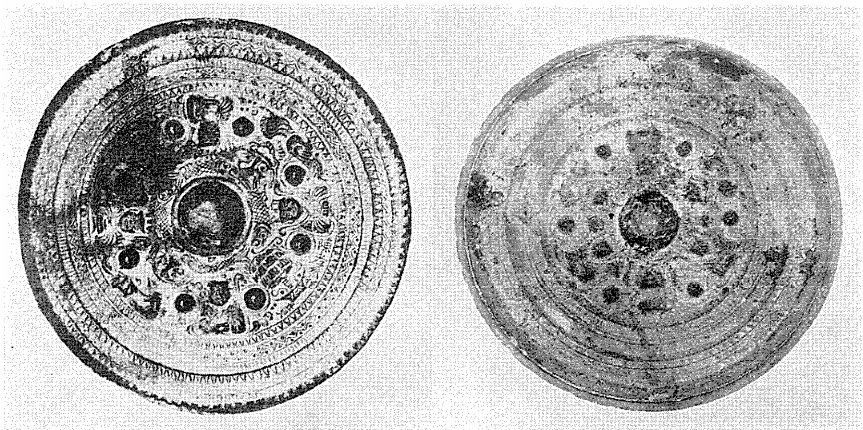
図版第8 阿保親王墓



図版第9 鷹尾山(城山)



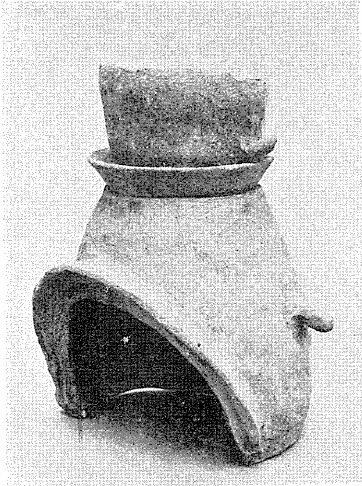
图版第10 打出出土銅鐸（親王寺藏）



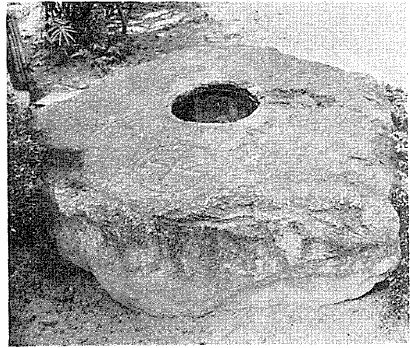
图版第11 打出出土神獸鏡

（左）陳孝然作魚帶神獸鏡（聆濶閣收藏）

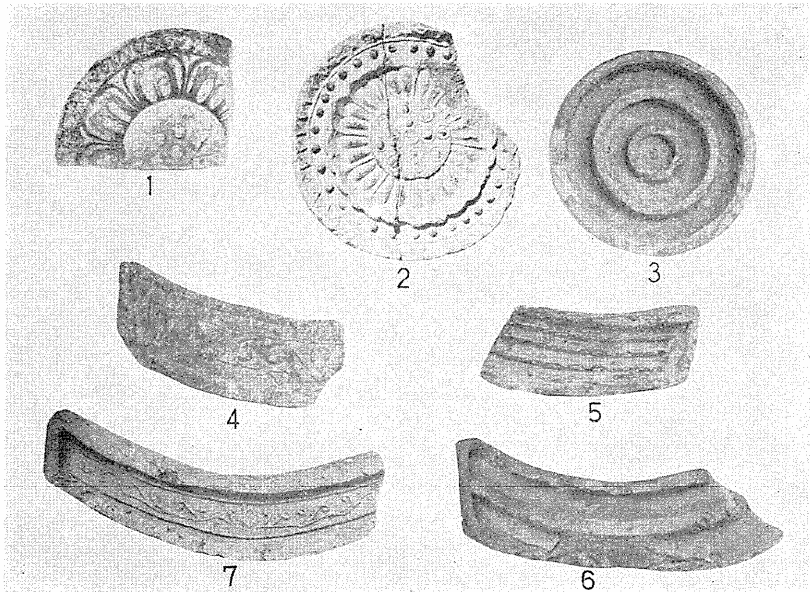
（右）神獸鏡（親王寺藏）



图版第12 三条町古墳出土甕形土器（京都大学蔵）



图版第13 伝法恩寺心礎（猿丸吉左門氏蔵）

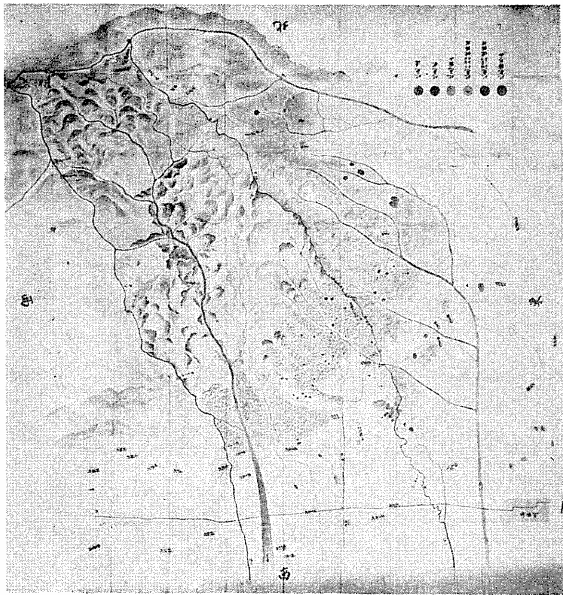


图版第14 法恩寺址遺瓦

① 猿丸吉左門氏蔵 ②～⑦ 朽木嘉郎氏蔵



図版第15 永祿3年三好日向守長康山論裁許状（吉田善八氏蔵）



図版第16 寛延3年山論裁許絵図（芦屋市役所蔵）
紙背に図版第17の裁許状あり



圖版第18 近世地方文書

①④⑤ 小坂作兵衛氏藏 ② 猿丸吉左門氏藏 ③ 小坂清兵衛氏藏

序

今回本市教育委員会が市史本編を発行されますに当り、祝辞を述べますことは私の最も光榮に存ずる処であります。

戦後各市において市史の編集に非常なる努力を傾注せられてい
る折柄、本市においては阪神間各市のトップを切つて、さきに市
史年表、並びに史料編第一を発行され、斯界の注目を集め、続い
て本編を発刊され、これに依り芦屋市史に更に輝やく一頁を加え
られて、市史研究者に一指針を与えられますことは、真に有意義
であり慶賀に耐えません。

ここに本編発行に当り所感の一端を述べ祝辞といたします。

昭和三十一年十一月

芦屋市長

内

海

清

市史本編の発刊にあたって

戦後わが国の地方史研究は学界と官公庁の提携により急速な発展をとげ、その成果に見るべきものがある。しかも地方史研究は、いわば歴史研究の基礎部分であるが、今までは地方史研究といったような地道な基礎研究から比較的遠ざかっていた地理・経済・法律・社会といったような隣接諸科学の研究者の中からも、有能な人々が数多く参加されて、その十全な成果が期待されている。

しかしながら近世地方史研究の中心にすえらるべき地方ぢかた文書もんじよは、戦災とその後の人心混乱により急速に滅失の傾向にあつて、研究の進展と相反の様相を呈し、地方史の全体的把握はあくは次第に困難の度を加えつつある。当市では先年ここに注目して、市史編集の事業を議に上せたが、教育委員会発足後、近代的科学的な市史を編集すべく、新たにその事業を企画し、昭和二十六年十月、わが芦屋市史の編集方を魚澄博士に依頼して氏の快諾を得、以来博士と博士を宗とする学者グループの手により事業は進捗されて、二十八年には「市史年表」を、三十年には「史料編第一」の発行を見るにいたり、引続きここにその「本編」ができた。さらに「史料編第二」の、発刊が約されている。

回顧するに編集委員御一同の心労は一通りのものではなかった。まことに感謝にたえない。一方、この事業に御協力を賜わった関係各方面の御好意にもただならぬものがあり、ここに厚く御礼を申し述べる。

昭和三十一年十一月

兵庫県芦屋市教育委員会

凡 例

一、本書は芦屋の歴史を通観した芦屋市史本編である。市史の刊行は、すでに昭和二八年三月に芦屋市史年表を、同三〇年三月に芦屋市史史料編第一を刊行しており、なお次に史料編第二の刊行が予定されている。本書と併読くださるならば幸甚である。

一、本書はまず第一章において芦屋市の自然的環境を明らかにし、ついで第二章古代及び中世の芦屋、第三章近世の芦屋、第四章近代・現代の芦屋の各章で歴史的發展の跡を記述した。現代の芦屋、ことに昭和一五年の市制施行以後の歴史的記述が紙面の制約もあつて簡略になつてはいるが、別に第五章都市の地域構造と市民生活の一章を設け、現状分析を中心とした人文地理学的立場よりの叙述を加えておいた。

一、本書はいわば通史であるので、詳細な統計表その他の資料の掲載を略した場合が多い。それらについては史料編を参照していただきたい。

一、本文中では原則として氏名の敬称を略させていただいた。

一、本市史の編集に当つては、幸い多くの方々から資料の御提供をうけたが、なお資料の散逸・欠除が少なく、その研究調査にはかなり困難なものがあつた。本文中に記載することができた会下山遺跡の発掘調査をはじめ、従来不明であつたり忘れられていた事実・資料の見出されたものも少くないが、本書の叙述

にはなお不十分であることを免れがたいものがあるであろう。読者の御教示をお願いする次第である。

一、本書の執筆に際して、第一章および第五章はとくに稲見悦治氏をわずらわせた。快くこれを引受けて御執筆下さった氏に深く感謝するものである。なお第二章は魚澄惣五郎・武藤誠、第三章は末中哲夫、第四章は有坂隆道が主として執筆に当たった。

一、最後になったが、市史編集に当って史料の提供その他御協力を賜わった関係各位に厚く感謝の意を表わす次第である。

昭和三十一年一月

芦屋市史編集委員

魚 澄 惣 五 郎
武 藤 誠
有 坂 隆 道
末 中 哲 夫

見返しの図は福原鬢鏡（延宝八年刊）からとった。
背文字および扉文字は魚澄惣五郎委員の筆になる。

芦屋市史 本篇

目次

第一章 自然的環境

- (一) 地域の広がりとその位置 一
 - 地域の広がり(二) 自然的な位置(二) 社会的な環境とその変遷(二)
- (二) 市名及び町名の由来 三
 - 市名の由来(三) 町名とその由来(四)
- (三) 生活の舞台 七
 - (1) 土地の生いたち 七
 - (2) 複雑な地形 八
 - 山地の急傾斜面と平坦面(八) 若返える河川(二〇) 山麓の台地(二〇) 沖積低地(二二) 移り変わる芦屋川畔の風景(二二) 後退する海岸線(二三) 高度、起伏と傾斜(二五)
 - (3) 地質の構造と地下資源 一九

花崗岩 (二九) …… 秩父古生層 (二〇) …… 更新層 (二〇) …… 現世層 (二二) …… 地下資源 (二二) …… 鉱泉 (二二)	(4) 地下水の状態……………	二二
地下水面の深さ (二二) …… クロール・水素イオン濃度の分布 (二三)	(5) 瀬戸内式の気候……………	二四
温暖な気温と少い雨量 (二四) …… 卓越する西風 (二五)	(6) 植 生……………	二五
植相 (二五) …… 山地の荒廃と植相の破壊 (二六)	(7) 自然の災害……………	二七
河川の機能と水災 (二七) …… 最近の河道の改修と昭和の水災 (二七) …… 高潮 (二九)	(8) 観 光 資 源……………	三〇
文化的観光資源 (三〇) …… 自然的観光資源 (三〇)		
	第二章 古代及び中世の芦屋	
	(一) 遺跡・遺物から見た古代の芦屋地方……………	三三
歴史のはじめ (三三) …… 石器時代遺跡 (三五) …… 打出岸造り遺跡 (三六) …… 会下山弥生式遺跡 (三七) ……		
…岩ヶ平遺跡 (三九) …… 打出土銅鐸 (四〇) …… 古墳分布の状況 (四二) …… 金津山古墳 (四三) …… 親王		

第三章 近世の芦屋

- 塚古墳群と出土遺物(四四) ……南部地区の古墳址(四九) ……岩ヶ平八十塚古墳群(五一) ……横穴式石室古墳址(五二) ……翠ヶ丘古墳群(五三) ……遺跡・遺物から見た芦屋地方の古代(五三)
- (二) 律令時代の芦屋 ……
 - 郡・郷・里の制と芦屋(五五) ……菟原郡(五五) ……賀美郷と葦屋郷(五七) ……芦屋地方と条里制(五八) ……
 - …交通と宿駅(六二) ……芦屋地方の古氏族(六五) ……仏教文化とその遺跡(六六)
- (三) 宮廷貴族と芦屋 ……
 - 名勝芦屋(七二) ……在原業平と芦屋(七二) ……阿保親王と芦屋(七五) ……文学に現われた芦屋(七七)
- (四) 芦屋地方と荘園 ……
 - 荘園制の進展と葦屋荘(八二) ……皇室領葦屋荘(八六) ……北野社領葦屋荘(八八)
- (五) 南北朝動乱と芦屋地方 ……
 - 戦略の要地芦屋(八九) ……赤松円心・太山寺衆徒の戦況(九〇) ……楠木正成・足利尊氏軍の打出合戦(九〇)
 - ……足利尊氏・直義の打出浜合戦(九二)
- (六) 戦国の世と芦屋 ……
 - 応仁の乱と摂津(九二) ……鷹尾城と芦屋河原の戦(九三) ……瓦林政頼と鷹尾城(九五) ……足軽合戦(九七)

(一)	近世的村落の成立	一〇一
	織豊政権の成立(二〇二)……戦国大名の対農民政策と村落の発展(二〇二)……自営農の生成(二〇四)……	
	……山論裁定(二〇五)……芦屋川番水の決定(二〇五)……農民の身分規制(二一〇)……太閤検地(二一〇)	
(二)	領主の政治と村落構造	一一二
(1)	将軍・大名の対農民政策	一一二
(2)	領主	一一四
	郡代建部氏(一一四)……藩侯戸田氏(一一六)……藩侯青山氏(一一六)……藩侯松平氏(一一八)	
(3)	農村支配機関	一一八
	代官(一一八)……大庄屋(一二九)……庄屋(一二二)……年寄(一二四)……百姓代(一二九)	
(4)	租税制度	一三〇
	検地(一三〇)……石盛(一三〇)……免(一三三)……藩財政窮乏と年賦講(一三五)	
(5)	貢納種目	一三六
	本途物成(一三六)……小物成(一三七)……運上(一三七)……課役(一三八)	
(6)	村勢の推移	一三九
	芦屋村(一三九)……打出村(一四二)……津知村(一四四)……三条村(一四五)	
(7)	身分構成	一四九

	庄屋・年寄・宮守・神主・住持・ありき・山番・樋守（二四九）……本役人・半役人・柄在家の身分設定の基準（二五〇）……屋敷持百姓（二五一）……柄在家（二五四）	
(8)	階層分化……………	一五六
	元禄期以前の階層分化（二五六）……農業生産力の上昇（二五七）……元禄期における持高変化（二五八）……元禄期→天明期の持高変化（二五九）……身分別の混乱（二六〇）……農村衰退の防止策（二六一）……中農層の安定（二六二）……衰退からの立直り（二六三）……百姓持高・身分別関係総観（二六四）	
	(三) 村落生活の変遷 ……………	一六六
(1)	山論……………	一六六
	芦屋庄百姓の逃散（二六七）……芦屋庄・本庄の山論（二六八）……芦屋庄・社家郷・本庄の山論（二六八）……芦屋庄の勝訴（二七一）	
(2)	入会……………	一七二
(3)	水利・水論……………	一七三
	芦屋川の分水（井親・井子）（二七三）……東川用水番割の成立（二七四）……水車建設の許可（二七六）……分水合石の制（二七七）……刻割・井手立合権の確立（二七八）……三条村畦垣内分水の割譲（二八一）……刻限をめぐる争い（二八二）……打出村の争論介入（二八三）……井堰出入に関する誓約（二八五）……用水不足解決の準備（二八七）……新川・新水車争論（二八九）……奥山池の開鑿（二八九）……新溜池の完成（二九二）……用水争論の意義（二九二）	
(4)	産業経済……………	一九二

(A) 菜種の栽培と売捌	一九三
灘目における油絞り水車（一九三）……菜種栽培の必要性（一九四）……文化二年の国訴以前の一般事 情（一九四）……文化期の国訴（一九七）……農民の勝訴（一九九）……文化期以降の国訴（二〇〇）	二〇一
(B) 酒造業	二〇一
米踏水車（二〇一）……酒造株（二〇二）……酒造出稼（二〇二）	二〇三
(5) 社寺と宮座	二〇三
芦屋村（二〇三）……打出村（二〇五）……三条村（二〇六）……三条村の宮座（二〇七）……芦屋村の宮座 （二一〇）	二一一
(6) 助郷	二一一
宿駅の制と助郷（二二一）……拝借金・加助郷（二二三）……伊能忠敬の測量（二二三）	二二三
(7) 摂海防備と灘筋	二二三
摂海防備と朝幕の動き（二二三）……打出陣屋（二二四）	二二七
第四章 近代・現代の芦屋	
(一) 明治維新と芦屋地方	二二七
地方制度の変革と芦屋地方（二二七）……庄屋から戸長へ（二二八）……封建的身分制度の改革と壬申戸籍 （二二〇）……地租改正（二二三）……学制頒布と精道小学校（二三三）……郡区町村編成法の実施（二三五） ……明治一六年度の村々概況（二二六）	

(二)	精道村の成立と発展	二三〇
(1)	精道村の成立	二三〇
	市町村制の実施と精道村の成立 (二三〇) …… 町村自治制の変遷 (二三二) …… 郡制の変遷 (二三三) …… 精道村の財政 (二三三) …… 村役場の新設 (二三四)	
(2)	高級住宅地としての発展	二三五
	住宅地芦屋の形成 (二三五) …… 交通機関の発達と電気・ガス (二三六) …… 郵便と電信・電話 (二三九) …… 警察 (二四二) …… 消防 (二四二) …… 上水道・下水道 (二四四) …… 衛生施設と民生事業 (二四六) …… 風水害 (二四七)	
(3)	教育・文化	二四九
	明治・大正期の教育 (二四九) …… 昭和一五年間の教育 (二五二) …… 各種団体 (二五三) …… 神社・神道 (二五四) …… 仏教 (二五六) …… キリスト教 (二五六)	
(4)	産業・経済	二五七
	農業 (二五七) …… 水産業 (二五九) …… 商工業 (二五九)	
(三)	芦屋市のあゆみ	二六一
	精道村から芦屋市へ (二六一) …… 太平洋戦争下の芦屋 (二六三) …… 戦後の復興と発展 (二六三)	
	第五章 都市の地域構造と市民生活	
(一)	都市の形成と地域の分化	二六七

人口の激増（二六七）……耕地の減少と宅地の増加（二六八）……住宅街の形成（二六九）……変貌する住宅街（二七〇）……地域の分化（二七〇）	二七二
(二) 都市の形態 ……	二七二
市街地と海拔高度（二七二）……市街地と傾斜（二七三）……戦前の都市計画（二七四）……戦後の都市計画（二七四）……交通施設の系統（二七五）……都市の立面形（二七五）	二七二
(三) 産業の構造 ……	二七七
農業の衰微（二七七）……零細な水産業（二七七）……零細な小売業（二七七）……小規模の工業（二七八）	二七七
(四) 人口の構造 ……	二七八
自然動態と社会動態（二七九）……性別別人口（二七九）……年令別人口（二八〇）……出生地別人口（二八二）……産業別人口（二八二）	二七八
(五) 住宅事情の実態 ……	二八二
建築敷地面積と建築面積（二八二）……住宅の建て方・種類及び構造（二八三）……建築時期別住宅（二八三）……住宅の腐朽破損の度合（二八五）……住宅及び宅地の所有関係（二八五）……一住宅の畳数と部屋数（二八六）……住宅と世帯との関係（二八七）……同居世帯の割合（二八七）……住宅の規模と同居世帯との関係（二八八）……居住者一人当りの畳数（二八八）	二八二
(六) 地域の構造と地域性 ……	二八九
市域と市街地（二八九）……地域の構成とその割合（二九〇）……一人当り市街地面積（二九〇）……住宅建築物の地域構造（二九二）……地価別地域構造（二九二）……人口密度別地域の構造（二九二）……町別平均	二八九

(七) 世帯所得額別地域の構造 (二九二) ……住宅事情別地域構造 (二九三) ……市民の生活……………二九三

市民の日常の動き (二九三) ……勤労生活圏 (二九四) ……高まった神戸市との関係 (二九四) ……消費生活圏 (二九五) ……時刻別の市民の動き (二九五) ……激減する昼間人口 (二九六) ……市民の学歴と職場上の地位 (二九六) ……市民の所得水準 (二九七) ……勤労者世帯の生活水準 (二九七)

図 版 目 次

図版第一	芦屋市遺跡地図……………	巻頭一
図版第二	芦屋市景観(1)……………	二〇三
図版第三	芦屋市景観(2)……………	二〇三
図版第四	地図に見る七〇年前の芦屋……………	四
図版第五	地図に見る三〇余年前の芦屋……………	五
図版第六	撰津名所図会に見る近世の打出……………	六

図版第七	摂津名所図会に見る近世の芦屋	巻頭六
図版第八	阿保親王墓	七
図版第九	鷹尾山(城山)	七
図版第一〇	打出出土銅鐸	八
図版第一一	打出出土神獸鏡	八
図版第一二	三条町古墳出土竈形土器	九
図版第一三	伝法恩寺心礎	九
図版第一四	法恩寺址遺瓦	九
図版第一五	永禄三年三好日向守長康山論裁許状	一〇
図版第一六	寛延三年山論裁許絵図	一〇
図版第一七	寛延三年山論裁許状(同右紙背)	一一
図版第一八	近世地方文書	一二
芦屋市城図		卷末折込

挿 図 目 次

第一 図	芦屋市旧字名図……………	六
第二 図	芦屋市地形区分図……………	九
第三 図	芦屋川河床傾斜断面図……………	一〇
第四 図	芦屋川河床下を通る国鉄軌道……………	一二
第五 図	芦屋川三角洲の今昔……………	一四
第六 図	芦屋海岸の防潮堤……………	一五
第七 図	傾斜より見た新市街地の限界……………	一六
第八 図	芦屋市地質概略図……………	一八
第九 図	芦屋市井水深度図……………	二三
第一〇 図	昭和一三年七月五日の芦屋市水害被災地域図……………	二八
第一 一 図	昭和一三年七月五日の水害状況……………	二九
第一二 図	ロックガーデン風景……………	三一
第一三 図	会下山弥生式遺跡全景……………	三八
第一四 図	岩ヶ平出土石器……………	四〇
第一五 図	金津山古墳……………	四三

第一六図	親王塚附近出土石製帶飾具……………	四九
第一七図	津知・三条附近条里復原図……………	六二
第一八図	打出観音堂の十一面観音像……………	七〇
第一九図	鷹尾城址附近地形図……………	九五
第二〇図	猿丸安時頌徳碑……………	一九〇
第二一図	明治一九年九月精道小学校開校当時の校舎……………	二二四
第二二図	精道村役場……………	二三五
第二三図	芦屋川を渡る阪神電車——大正初年写……………	二三七
第二四図	最初の芦屋郵便局……………	二三九
第二五図	大正三年一〇月の精進尋常高等小学校校舎配置図……………	二五〇
第二六図	人口変遷図……………	二六八
第二七図	町別人口分布図……………	二六九
第二八図	海拔高度と市街地発達状況……………	二七一
第二九図	山手傾斜地の住宅街……………	二七六
第三〇図	町別住宅の復興状況……………	二八四
第三一図	昼間の流出口……………	二九六

目 次

第一表	大庄屋・庄屋・年寄一覧表……………	一二五
第二表	芦屋村・三条村本田畑屋敷石盛表……………	一三一
第三表	芦屋村・三条村新田畑石盛表……………	一三二
第四表	三条村・打出村免一覧表……………	一三四
第五表	寛文三年三条村百姓持高・屋敷一覧表……………	一四六
第六表	三条村新田畑開発表……………	一四七
第七表	寛文三年三条村百姓持高表……………	一五二
第八表	寛文三年三条村の屋敷持百姓と持たない百姓との持高比較表……………	一五二
第九表	元禄頃三条村身分別百姓持高表……………	一五四
第一〇表	天明三年三条村身分別百姓持高表……………	一六〇
第一一表	政寛二年三条村身分別百姓持高表……………	一六二
第一二表	三条村戸口・牛数表……………	一六三
第一三表	文化一四年三条村身分別百姓持高表……………	一六四
第一四表	貞享四年番割表……………	一七五
第一五表	寛政一二年番割表……………	一七九
第一六表	憲政一二年酒頭司他国稼表……………	一〇三
第一七表	壬申戸籍による統計表……………	一一一

第一八表	明治一六年度芦屋・三条・津知村戸数人口表	二二八
第一九表	同 右 物産表	二二八
第二〇表	同 右 耕地宅地表	二二九
第二一表	同 右 租税表	二二九
第二二表	歴代精道村長一覽	二三二
第二三表	武庫郡費の精進村分賦額	二三三
第二四表	歴代郡長一覽	二三四
第二五表	精道村村費の変遷	二三四
第二六表	郵便の増加	二四〇
第二七表	電報・電話の増加	二四一
第二八表	明治・大正期の精道小学校職員児童数	二五一
第二九表	農地面積と米麦収穫高の変遷	二五七
第三〇表	明治・大正期の工業	二六〇
第三一表	歴代市長・助役・収入役一覽	二六二
第三二表	歴代市議会正副議長一覽	二六二
第三三表	海拔高度より見た市街地発達状況	二七二
第三四表	地表傾斜より見た市街地発達状況	二七三